

鱈ヶ沢町人権学習モデル講座 「いきいきと生きられるまち」

研 座 演 沙 資 映 他 体 7

鱈ヶ沢町教育委員会
青森県鱈ヶ沢町教育委員会教育課
TEL 0173-72-2859

実施年月日 実績等	実施年月日:平成17年3月12日(土) 参加人数:51人
主催(共催)	青森県人権教育・学習推進協議会 (鱈ヶ沢町教育委員会及び特定非営利活動法人NPO推進青森会議により組織)
開催場所	鱈ヶ沢町中央公民館
対象	県民
人権課題	人権全般

事業の目的

青森県では文部科学省が推進する「人権教育推進のための調査研究事業」に参画し、平成16年度から2年にわたって県内各地の市町村で社会教育分野に関する人権教育事業を行った。その実施事業のひとつ。鱈ヶ沢町に委託する形を取りつつ、県、町、NPOが三位一体となって進めていった。

モデル講座の目的は、自分たちの住む町を「いきいきと生きられるまち」にする方法を探すというもの。「子どもも高齢者も、男性も女性も、障害のある人もない人も、みんなが地域や社会と関わりを持ちながら幸せに暮らしていく」ために、講座を通して「人間は本来一人一人違いがあり、そのことを肯定的に捉え尊重しあうことが大切である」ことを実感し、「一人一人がいきいきと生きられるまちはどんなまちか」を考えてもらう。

具体的な効果を図るため、講座終了後には参加者やスタッフを対象にしたプログラム評価を実施。参加者アンケート調査、参加者ヒアリング調査、スタッフヒアリング調査、講座の運営・実施状況の観察といった方法が取られた。

事業概要

前半は地元の社会福祉法人抱民舎「であいの家あうん」施設

長の成田春洋さんに「いきいきと生きられるまち」をテーマに講演してもらった。成田さんは同施設で知的障害者の更生に携わっており、知的障害者と一緒に過ごす日々について具体的な話がなされていった。後半は、「体験タイム」として、以下のような参加体験型のアクティビティを行った。

①アクティビティ「うれしい発見」

参加者をいくつかのグループに分け、最初に各自が自分の得意なことやアピールしたいことを付せんを書く。その後、付せんの内容をもとにグループのメンバーが自己紹介をする。一人の自己紹介が終わったら、右隣の人が「それは素晴らしいですね」といい、なぜ素晴らしいのか理由や感想を話す。



後半に行われた「体験タイム」での話し合いの様子



グループごとの発表の様子

②アクティビティ「ダイヤモンドランキング」

グループごとに「いきいきと生きられるまち」の9つの項目を挙げてランキングしていく。最後に各グループが「第1位」の項目を中心に、その選定理由などを発表する。

連携状況

鱈ヶ沢町教育委員会と特定非営利活動法人NPO推進青森会議が連携して実施した。全体の総括とプログラム企画、ファシリテーターなどをNPOが担当。鱈ヶ沢町教育委員会は会場の提供と、チラシなどによる広報を行っていった。県教育委員会も随時アイデアを出していった。

特色・工夫した点

○参加体験型のアクティビティに対しては、「何かやらされる」という点に対する拒否反応も予想されたことから、参加者募集のチラシには「ワークショップ」という言葉は用いず、「体験タイム」という言葉を使用した。

○体験タイムでは、各グループに進行を補助する「テーブルマネージャー」を配置して、参加体験型のアクティビティに慣れていない参加者を支援した。

実施結果

参加者の反応・事業の反響等

参加者アンケートによれば、「講演」については、「大変よかった」が83%、「まあまあよかった」が17%であり、「あまりよくなかった」及び「全くよくなかった」はゼロだった。知的障害者と日常的に接している成田さんの実感のこもった話は、身近な例から人権について考えさせられる内容であり、大変好評だった。

「体験タイム」については、アンケート結果では「大変よかつ

た」76%、「まあまあよかった」24%、「あまりよくなかった」及び「全くよくなかった」はゼロだった。冒頭で行ったアイスブレイク的なアクティビティ「うれしい発見」により、すぐに場内が和気あいあいとした雰囲気に包まれた。「いきいきと生きられるまち」を考える「ダイヤモンドランキング」では、講演の内容を例として出しながら意見を述べ合うグループもあった。

反省点・今後の課題

プログラム評価の結果から、次のような点が明らかとなった。

○「人権」とうたわなくても、「まちづくり」「地域づくり」という視点で講座を設定すると参加しやすい。

○グループでの学習活動においては、グループごとの話し合いを促進、援助するための「テーブルマネージャー」を配置することで、学習活動に深まりが生まれる。

○講演でも参加体験学習の取り入れ、進行者(ファシリテーター)が講演内容に即した紹介や説明を行っていった。運営側からの型どおりの「講師紹介」や「謝辞」に留めないことも、参加体験型学習では重要である。

○参加体験型学習におけるグループでの話し合いは、「他人の話を否定することなく受け入れる」、その上で「自分の考えを述べる」という流れで進められた。これは日常的なコミュニケーションの基本であるが、参加体験型学習を通してそれを再確認することで他人を思いやるという人権の基本的な部分を身につけることにもなる。

青森県人権教育・学習推進協議会 鱈ヶ沢町人権学習モデル講座

「いきいきと生きられるまち」

自分たちの住むまちを「いきいきと生きられるまち」にするためには何が必要でしょうか？
それは、「子どもも高齢者も、男性も女性も、障害のある人もない人も、みんなが地域や社会と関わりを持ちながら幸せに暮らしていく」ことが必要です。
この講座では、「人間は本来一人一人違いがあり、そのことを肯定的に捉え尊重しあうことが大切である」ことを実感し、「一人一人がいきいきと生きられるまちはどんなまちか」を考えます。

開催日時及び場所
日時 平成17年3月12日(土) 13:30~16:30
会場 鱈ヶ沢町中央公民館 大会議室
鱈ヶ沢町本町209-2
TEL. 0173-72-2859

参加費 無料

プログラム
13:30~15:00 講演
講師: 社会福祉法人抱民舎「であいの家あうん」施設長 成田 春洋さん
15:00~15:10 休憩
15:10~16:10 体験タイム 参加者の皆さんで、人権を楽しく学びましょう。
※ 全体進行: 三上 亨 (青森県人権教育・学習推進協議会委員 (NPO推進青森会議常務理事))

◆主催: 鱈ヶ沢町人権教育・学習推進協議会
◆お申し込み(お問い合わせ)先: 鱈ヶ沢町人権教育・学習推進協議会事務局(鱈ヶ沢町教育委員会)へ
電話またはファックスでお申し込みください。
(ファックスの場合は、氏名、住所、電話番号をご記入願います。)
TEL&FAX 0173-72-2859

講座「いきいきと生きられるまち」参加募集のチラシ